慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	「特集」に寄せて
Sub Title	
Author	萩原, 滋(Hagiwara, Shigeru)
Publisher	慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所
Publication year	2004
Jtitle	メディア・コミュニケーション : 慶応義塾大学メディア・コミュニケーション研究所紀要 (Keio media communications research). No.54 (2004. 3)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	特集 : TVステレオタイピング(2)
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA1121824X-20040300-0003

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

「特集」に寄せて

慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所
邦文紀要『メディア・コミュニケーション』編集担当
『メディア・ステレオタイピング』プロジェクト代表
萩 原　　滋

本号では，前号（53号）に引き続き，「メディア・ステレオタイピング」プロジェクトの研究成果を取り上げることになり，「TVステレオタイピング（2）」というタイトルで５篇の特集論文を掲載した。このプロジェクトは，偏見や差別と結びつきやすいステレオタイプの構築という点でのメディアの影響力，特に日本社会に広く浸透して多くの人々の主要な情報源となっているテレビのステレオタイピング機能を外国・外国人を主題として多角的に分析することを目的に平成13年度に発足したものである。これまでの３年間，①文化的背景を異にする多数の外国人がスタジオに集結して硬軟取り混ぜた多様な話題に関して日本語で論戦を繰り広げた「ここがヘンだよ日本人」（TBS系）というバラエティ番組（1998年10月～2002年３月），②サッカーファン以外の多くの日本人を巻き込んで巨大なメディア・イベントと化した日韓共催のFIFAワールドカップに関するテレビ報道（2002年５月23日～７月５日），③外国（西洋）イメージへの依存度が高いテレビCM（2003年6月２日～8日）という３種類の異なるテレビ素材の内容分析を行うと共に，2002年５月末，７月初，10月初の３時点で大学生を対象とする質問紙調査を実施して，「ここがヘンだよ日本人」という番組の視聴効果やW杯よる外国イメージの変化の様相を検討した。さらに2003年７月には小学生，中学生，高校生を対象とする質問紙並びに面接による調査を実施して，外国・外国人に関する知識やイメージの発達過程の分析を試みている。

前号の特集では，主に「ここがヘンだよ日本人」を対象とした分析結果を取り上げたが，今回はテレビCMを素材とした研究を中心に特集を組んでいる。テレビCMに関する３篇のうち，萩原論文では，外国人，外国風景，外国語といった外国要素の利用実態を詳しく分析し，10年前との比較を通じてテレビCMに現れる外国イメージの動向について考察している。国広論文では，日本社会に根強く存在する単一民族社会の神話，外国人というカテゴリーを自明視する日本人の心性を批判的に捉え，テレビCMにみる日本人の自意識をナショナル・アイデンティティとの関連で読み解こうとしている。有馬論文では，西洋文化への憧憬と畏怖といった異文化受容に際しての日本人の複雑な心情がヘアケア関連のCMにどのように反映されているかを吟味している。

本特集には，CMを扱ったこれらの論考以外に，２篇の論文が収録されている。ひとつは小学生，中学生，高校生の外国に関する知識やイメージの発達を質問紙並びに面接調査によって検討した相良・萩原論文，もうひとつは「ここがヘンだよ日本人」という番組が終了して間もない時期と約半年後に実施された２回の調査に基づいて番組視聴効果の持続性を検討した大坪・萩原論文である。

本プロジェクトでは，これまでに作成した番組構成表や質問紙調査の回答の分析作業は，今後も継続して行っていくが，基礎となるデータ収集，実証研究の部分は本年度をもってひとまず終了することにした。これまでの研究成果を取りまとめて2004年秋に成書として出版することを目指して，これから来年度にかけて，その準備に専心する予定である。なお本研究は慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所の研究・教育基金（平成13〜15年度），文部科学省科学研究費基盤研究C（平成14〜15年度），放送文化基金（平成13年度）による資金補助によって実現したものである。関係者各位に対して改めて謝意を表したい。

本研究プロジェクトのメンバーは以下の通りである。

研究代表者	萩原　滋	慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所教授
共同研究者	国広　陽子	武蔵大学社会学部教授
同	有馬　明恵	平成国際大学法学部講師
同	相良　順子	聖徳大学人文学部講師
同	上瀬由美子	江戸川大学社会学部助教授
同	金　鉉哲	慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所研究員
同	山本　明	慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所研究員
同	黄　允一	慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所研究員
同	渋谷　明子	慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程
同	大坪　寛子	慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程